

I 実践

1 研究主題

思いやりの心をもって、好ましい人間関係を築くことができる児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校は複式学級のある小規模校である。小規模特認校制度による児童の受け入れがあり、全校児童は26名である。児童が市内全域から通学し、スクールバスを利用している児童もいる。また、小中一貫教育も行われており、コミュニケーション科（英語・ことば）など様々な表現活動の場を設定して取り組んでいる。声に出して発表することが苦手な転入生もいたが、自分の考えを相手に伝えようと意識して取り組み、少しずつ表現できるようになってきている。同時に、在校生も転入児との出会いから新たな人間関係づくりが求められるようになり、課題の1つとなっている。そこで、異学年交流などの様々な体験活動を取り入れることで、お互いを知り、相手を思いやる心を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

ア 地域の文化についての交流学习（全校児童と5年生 3・4年生）

イ 豊かな体験活動の展開（縦割り班活動など）

ウ 地域の施設との交流（5年生）

エ 人権週間の実施

2 実践内容

(1) 地域の文化についての交流学习（全校児童・3・4年生）

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、今年度は昨年度まで実施をしていた日立特別支援学校との交流会や人権集会など、対面で行う交流学习は中止となった。主に校外で実施できる行事を実施した。特色ある学習として、例年全校児童で田植えと稲刈りを実施している。その中でも5年生が総合学習で地域の米作りについて学習している。今年は新型コロナウイルス感染症の流行で、田植えは出来なかったが、感染予防を徹底して稲刈りを実施することができた。人数を少なくして2回に分けて実施した。低学年と高学年に分かれ、上の学年に教わりながら、鎌の使い方を覚えていくのが、中里小学校の伝統になっている。

3・4年生と中学2年生が地域との関わりを学習する総合学習で、中里特産のりんごについて調べ学習をしたり、りんごの摘果や収穫をしたり、りんご園の方に質問したりして交流を続けている。

特認校としての魅力に、転入生は稲刈りやりんごの収穫をあげている。今年は保護者の参加は無かったが、稲刈りでは保護者も体験して、親子での会話が生まれ貴重な経験となっている。

(2) 豊かな体験活動の展開（縦割り班活動など）

ア 委員会活動での交流

図書集会委員会は、読書週間に読み聞かせを行ったり、健康給食委員会が手洗い指導を行ったりしている。感染対策として、少人数での活動を行ったが、低学年の児童はたいへん喜んでいた。小規模特認校制度による児童は、このような場で話を聞くことで、児童との関わりを深めていた。休み時間は、全校児童が仲良く遊ぶための雰囲気作りの一環にもなっている。

イ 異学年との交流（縦割り班活動）

本校は、学年や兄弟、その他人間関係を考慮して4つの班に分けた縦割り班活動を行っている。清掃では、昼休みが終わると、高学年の児童は低学年の児童を教室に迎えに行ったり、終わった後は一緒に連れていったりする姿もよく見かける。また、上級生が優しく声をかけながら、やり方を教えて清掃に取り組んでいる様子が多く見られる。

ウ 奉仕活動・ありがとうカードの実施

学年花壇の整備を全校で取り組むことができた。多くの活動の中でお互いの良さを認め合うために「ありがとうカード」を作成し、全校児童が友達への感謝の気持ちを表わすことができた。異学年間でもカードを交換していて、縦割り班での交流のきっかけにもなっている。

エ 「めぐみ」のDVD鑑賞

なかよしフォーラム（人権集会）の実施が出来なかったため、全校児童で「めぐみ」のDVDを観て、それぞれ感想を書いた。児童の感想には「北朝鮮が怖い。」「こんな事が起きるなんて。」「こんな事が二度と起きて欲しくない。」「めぐみさんはどんなに怖かった事だろうか。」「早くめぐみさんに帰ってきて欲しい。」「悲しかった。もっと知りたい。」「めぐみさんの力になりたい。」などがあり、中には涙を浮かべている姿がみられた。人権を考えるきっかけとなった。こころのたよりとして、保護者にも児童の感想と様子を伝えた。

（3）地域の施設との交流（5年生）

5年生の総合的な学習の時間では、中里の福祉を考え、自分たちにできる事は何かを事前に話し合い、地域の高齢者福祉施設「山水苑」との交流を行っていたが、今年は中止となった。全校児童で取り組んでいる花作りの中で、5年生が毎年地域のお世話になっている施設へプランターを届けた。地域が花や笑顔でいっぱいになるように、毎年交流を続けている。

（4）人権週間の実施

毎年全校児童で応募している人権メッセージを12月の人権週間に福祉放送委員会が、放送をしている。友達のいろいろな考え方を知る良い機会となっている。人権週間に合わせて、メッセージの掲示も行った。

また「自分へのありがとうカード」を作成した。どんな事に頑張っているのか、学校や家、友達のために自分がどのように役にたっているのか考え、自己肯定感を高めることができた。



3 成果

- ・道徳等の時間に「ありがとうカード」や「人権メッセージ」を作成し、人権コーナーの活用を行った。異学年の交流も増え、友達のよいところや考えなどの理解が深まり、他尊意識を育てたり、将来の夢や頑張った自分へのメッセージを書くことで自尊感情を高めたりすることができた。今後もこうした取り組みをさらに充実させていきたい。
- ・小規模特認校制度による転入児が、早く本校に慣れて友達と仲良く生活できるようにするためにも、縦割り班活動や全校での活動は大変効果的であった。

II 今後の課題

感染症対策で行事が中止や縮小され、人間関係づくりが苦手の児童も多い中、友達との会話やふれ合いが減り、自分中心の考え方や行動をしてしまう児童が見られた。各教科や道徳の時間など学校教育全体を通して、人権に関する学習をより充実させ、児童一人一人の人権意識を高めるための取り組みを、計画的継続的に実践していきたい。

III 人権コーナーの設置の様子

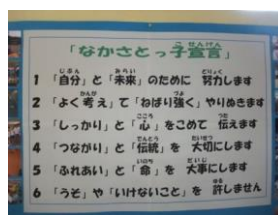
児童同士の「ありがとうカード」を顔写真と共に掲示した。全校児童の「人権メッセージ」も掲示し、福祉委員会の児童が全員のメッセージを朝の放送で紹介している。特別支援学校との交流会や高齢者福祉施設での交流の写真を掲示して、児童の啓発を図っている。各教室にも人権コーナーを設置して自尊感情や他尊意識を高めていけるように努めている。



人権メッセージ



ありがとうカード



なかさとっ子宣言



昨年度の様子